



# コーちゃん・オーちゃんの 「見つけた！豊岡元気人」



かぼんのパーツや部品は面白い！



関係者との協議



蝶ネクタイがトレードマークの林さん

## 「かぼんの拠点施設」誕生にまい進

### かぼんで豊岡を楽しいまち

豊岡ならではの「かぼんの職人学校」や「カバン・パーツ・シヨップ」の開設にまい進する、元気な男性を紹介します。

林 健太さん(29歳)小田井町

豊岡市やかぼん事業者(工業・卸・材料商)、宵田商店街などが支援する「カバン・アルチザン・スクエア(以下、カバンアルチザンという。)」事業。宵田商店街の空き店舗を活用した、中心市街地の活性化やかぼん産業を象徴する拠点作りで、活躍しているのが林 健太さんです。

#### 立ち上げる仕事にやりがい

大阪市出身の林さん。大学では建築を専攻しました。「建物を建てるときは、結婚や会社の設立など、人生のハッピーな瞬間。その瞬間に立ち会いたかった」と醍醐味を語ります。次第に、コンセプト(基本理念)やプロデュース(制作)に魅力を感じ出し、在学中に、アルバイトで豊岡のかぼん販売店の建築模型の制作に携わりました。このとき初めて、豊岡はかぼんのまちと知りました。

大学卒業後、照明イベントの仕事に携わった際、宵田商店街空き店舗活用事業の事業主体である豊岡まちづくり株式会社から、企画を依頼されました。豊岡、かぼんとの再会です。かぼんに特化した企

画は、見事に採用され、運営にも誘われました。「私はまだ29歳と若いですが、豊岡に来ることで、大きな仕事に関われることに、ワクワクしました。また、かぼん事業者など業界のトップの方々とお話をされるチャンスはめったにな」と、昨年8月、同社の誘いを引き受けました。

#### 外から目線にヒント

会社での肩書きはマネージャー。カバンアルチザン事業の企画・段取り・運営・管理の全てを任せられました。

現在は、来春のグランドオープンに向け、関係者との協議を中心に、「かぼんの職人学校」や「カバン・パーツ・シヨップ」などの開設準備を進めています。「答えのない世界です。かぼんの流通のさせ方など、豊岡でしか学べない、豊岡ならではの学校にしたいです。また、販売する商品は、地元の方が納得するだけでなく、都会の方が観光客などに喜ばれるものでないとビジネスとして成り立ちません」と構想を語ります。

また、「かぼんは流通量が多いので、産地が見えにくい地

場産業。産地の『見せ方』を工夫したいです」とのこと。かぼん工場に並べてある錠前などのパーツや小物を見て、「こんな都会でも手に入らない。面白い」と感じ、また、かぼんのクリーニング屋や修理工場など、市内には「見せ場」となる素材が集積していることに気付いたとか。「ここまでかぼんと共生しているまちは、国内では豊岡しかありません。古いミシンの音が響く光景があると、もっと面白いですね。豊岡とかぼんの印象をつなげて、認知度を高めたいです」と構想を膨らませています。

#### かぼんで楽しいまちに

「かぼんは、豊岡を活性化させるチャンスで、かぼん職人さんの仕事への誇りは、豊岡のかぼんの最大の強みです」と語気を強めます。「これまでのかぼん業界のやり方があり、思うように仕事が進まないこともあります。関係者には情熱があります。『よそ者・若者・ばか者』の発想を大切に、魅力あるかぼんで楽しいまちにしたいです」と笑顔で話していました。

# ま ち の 話 題



▲内部に入ると当時の暮らしが思い浮かぶ

北近畿タンゴ鉄道(KTR)観光型車両「あかまつ」  
「あおまつ」特別体験試乗会  
観光型車両に乗って旅を楽しもう!

4月12日、北近畿タンゴ鉄道は、4月14日に運行開始の観光型車両「あかまつ」あおまつ」の特別体験試乗会を実施しました。車両は、九州新幹線を手掛けたデザイナーの水戸岡鋭治さんが設計・デザイン。座席やテーブルなどが木製で、窓に向かって座れる席などが設けられています。参加者からは景色を楽しむとともに、内装のインテリアにも目を奪われていました。

参加した北井 進さん(日高町日置)は「あかまつ」は、ソファがあり、家庭的な雰囲気です、周りの方と仲良く話しをしながら乗れました」と笑顔で話していました。



▲体験試乗を終え、満足した表情で車両を降りる

## 「足軽長屋」保存修理お披露目会 歴史遺産が地域コミュニティの場に変身

4月13日、出石歴史文化交流館(出石町松枝)が完成し、お披露目会が開催されました。この建物は、元々は出石藩の下級武士の民家だったもので、出石に現存する貴重な歴史遺産です。

集まった地元の方々は、式典後、建物内部を見学し、出石高等学校茶道部の抹茶のもてなしを受けるなど楽しいひとときを過ごしていました。

松枝区長の片山正之さんは「老朽化で危険だった建物が、茅葺屋根をはじめ、見事に修復された。多目的交流施設としてどんどん使って」と話していました。

## 笑顔の輪

環境にやさしい食材で体にやさしい商品を一  
中筋いきがいクラブ(豊岡)

約10年前、定年退職したお茶飲み友達が集まり、「何かやろうか」と始めた漬物作りが「中筋いきがいクラブ」誕生のきっかけです。現在は、出石農産物加工場を借りて9人のメンバーで活動しています。



▲和やかに商品作りに取り組むメンバー

発に取り組んでいました。そうした中、健康に良いシウガを豊岡の豊かな土地で生産して活性化を図ろうと、平成23年11月に中筋生姜生産組合が設立され、減農薬で安全・安心な「このとり生姜」が誕生しました。

同クラブはこれを活用し、株式会社トキワ(香美町)の協力を得て、生姜シロップ、生姜粉をリニューアルしたほか、生姜しほり汁、生姜コンフィチュー

代表の太田国雄さんは「5年前に大病を患い、免疫力を高め、体温を上げるシウガ紅茶にはまりました。何かシウガを使った商品が作れないかと考えました」と話します。当初は、高知県四万十町からシウガを仕入れ、シウガのシロップや粉末の商品開

ル(ジャム)、生姜醤油を完成させました。「このとり生姜の商品を多くの方に賞味してほしいです」とメンバーは話します。間もなく、入浴剤「このとり生姜風呂」を発売する予定です。体脂肪燃焼、疲労回復に効果ありとのこと。楽しみにお待ちください。